

レタス

————— 発病・加害時期  
 ═══════ 発病・加害最盛期

作型・病害虫名	月											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
晩夏まき									●	▲	■	
は種												
定植												
収穫												
灰色かび病										—	—	—
菌核病										—	—	—
軟腐病										—	—	—
アブラムシ										—	—	—
ヨトウムシ										—	—	—
ハスモンヨトウ										—	—	—

灰色かび病

留意事項

- 1 薬剤耐性菌が出現しやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- 2 ダコニール1000、ダコニールアルファに含まれる成分TPNの総使用回数は、5回以内（土壌かん注は2回以内、散布は合計3回以内）なので注意する。
- 3 QoI剤《11》、SDHI剤《7》は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 排水を良好にし、ポリフィルムなどでマルチングを行う。
- 2 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 3 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
  - ・ [ダコニール1000](#) <M5> 【1000倍 14日/3回】
  - ・ [ダコニールアルファ](#) <M5> 【2000倍 14日/3回】
  - ・ [ベルコート水和剤](#) <M7> 【1000~2000倍 14日/3回】
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [アミスター20フロアブル](#) 《11》 【2000倍 7日/4回】
  - ・ [ロブラール水和剤](#) <2> 【1000~1500倍 14日/3回】
  - ・ [ケンジャフロアブル](#) 《7》 【1500倍 前日/3回】
  - ・ [ブロードワン顆粒水和剤](#) <1> <9> 【1500倍 7日/2回】

菌核病

留意事項

- 1 土壌中にネズミのフンのような黒い菌核が残り伝染源となる。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

2 QoI剤<< 1 1 >>、SDHI剤<< 7 >>は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

### 防除方法

- 1 田畑輪換を図る。
- 2 排水を良好にし、ポリフィルムなどでマルチングを行う。
- 3 連作を避ける。
- 4 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 5 収穫残さをほ場外に持ち出し処分する。
- 6 定植前に、たん水処理を行う。
- 7 下記の薬剤を育苗時に施用する。
  - ・ [パレード20フロアブル](#) << 7 >>
    - 【100倍 かん注（セル成型育苗トレイ1箱または、ペーパーポット1冊（約30×60cm、使用土壌約1.5～4L）当たり0.5L） 育苗期後半～定植当日／1回】
- 8 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
  - ・ [ベルコート水和剤](#) <M 7> 【1000～2000倍 14日／3回】
- 9 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [トップジンM水和剤](#) < 1 >
    - 【1500～2000倍 7日／2回】または【1500倍 かん注（1.5L/m<sup>2</sup>） 45日／1回】
  - ・ [パレード20フロアブル](#) << 7 >> 【2000～4000倍 前日／3回】
  - ・ [ファンタジスタ顆粒水和剤](#) << 1 1 >> 【2000～3000倍 3日／3回】
  - ・ [ロブラール水和剤](#) < 2 > 【1000倍 14日／3回】

## 軟腐病

### 留意事項

- 1 高温多湿時に多発する。

### 防除方法

- 1 連作を避ける。
- 2 排水を良好にし、ポリフィルムなどでマルチングを行う。
- 3 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 4 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
  - ・ [マスタピース水和剤](#) <－(生)> 【1000～2000倍 前日／－】
- 5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [バリダシン液剤5](#) <U 1 8> 【800倍 前日／3回】
  - ・ [スターナ水和剤](#) < 3 1 > 【2000倍 7日／2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

## アブラムシ類

### 防除方法

- 1 寒冷しゃで苗を被覆し、侵入を防ぐ。
- 2 シルバーポリフィルムでマルチングを行う。
- 3 下記の薬剤を施用する。
  - ・ [スタークル粒剤](#)、[アルバリン粒剤](#) < 4 A > 【2g/株 植穴土壌混和 定植時/1回】
- 4 発生を認めたら、下記の薬剤を散布する。
  - ・ [コルト顆粒水和剤](#) < 9 B > 【3000~4000倍 前日/3回】
  - ・ [トランスフォームフロアブル](#) < 4 C > 【2000倍 前日/3回】
  - ・ [ダントツ水溶剤](#) < 4 A > 【2000~4000倍 前日/2回】
  - ・ [ウララDF](#) < 2 9 > 【2000倍 前日/2回】

## ネキリムシ類

### 防除方法

- 1 下記の薬剤を、セル成型育苗トレイ（培土）に処理する。
  - ・ [プレバソフロアブル5](#) < 2 8 >
    - 【100倍 かん注（セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊  
（約30×60cm、使用土壌約1.5~4L）当たり0.5L） 育苗期後半~定植当日/1回】
- 2 下記の薬剤を施用する。
  - ・ [ダイアジノン粒剤5](#) < 1 B >
    - 【4~6kg/10a 全面土壌混和または作条土壌混和 は種時または定植時/2回】
    - または【6kg/10a 土壌表面散布 は種時または定植時/2回】
  - ・ [フォース粒剤](#) 劇 < 3 A > 【9kg/10a 全面土壌混和 定植前/1回】
  - ・ [アクセルベイト](#) < 2 2 B > 【3~6kg/10a 株元散布 前日/3回】

## ヨトウムシ

### 防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [グレーシア乳剤](#) < 3 0 > 【2000~3000倍 3日/2回】
  - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 < 1 3 > 【2000倍 前日/2回】
  - ・ [スピノエース顆粒水和剤](#) < 5 > 【5000倍 3日/3回】
  - ・ [ベネビア0D](#) < 2 8 > 【2000~4000倍 前日/3回】
  - ・ [BT剤](#) < 1 1 A > （Ⅸ野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照）

## ハスモンヨトウ

### 留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

行う。

#### 防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [グレースシア乳剤](#) <30> 【2000～3000倍 3日/2回】
  - ・ [アフーム乳剤](#) <6> 【1000～2000倍 3日/3回】
  - ・ [ディアナSC](#) <5> 【2500～5000倍 前日/2回】
  - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 <13> 【2000倍 前日/2回】
  - ・ [プレオフロアブル](#) <UN> 【1000倍 7日/2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。